

はじめに

本書は、2010年8月に贛南師範学院で開催された第4回国際セミナー「現代中国と東アジアの新環境 中国革命、社会変容と世界」への提出論文6篇について、会議後に改訂・整理したものである。

国際セミナー「現代中国と東アジアの新環境」は、学校間交流の形式によって現代中国研究にかかわる東アジアの共同研究を進めるため、大阪大学中国文化フォーラムが中国・南開大学歴史学院、台湾・東華大学歴史学系とともに2007年以来毎年開催している。第4回国際セミナーは、この三校に加えて贛南師範学院と内モンゴル大学および中国現代史学会による共同開催となり、日本・台湾・香港の10大学、中国の12大学の70余名の研究者が参加、50余篇の論文が提出された。

中国革命については、中央ソヴェト区、抗戦期の中共根拠地、都市・農村関係、婚姻と農村女性、動員と農民協会など、研究上の新たな趨勢として中共党史と社会史研究の興味深いインターフェースが提示された。近代中国社会の変容については、蒋介石の国家観念と実践、蔣経国の郷村建設理念、戦後国民政府による日本人技術者の留用、民末清初の内モンゴル問題、コミンテルンと内モンゴル革命、あるいは近代交通システムと社会変容、近代教育思潮、さらには人民共和国初期の疫病対策などについての報告と討論が行われた。世界（国際視野）については、今日の日中関係に関連する諸論点、すなわちアメリカによる占領期日本の復興政策と中国の関係、日本経済界のBOP戦略、世界仏教大会と中国、インドシナの華僑問題、金属汚染と中国環境問題などが主として日本の研究者により論点の提示がなされた。

本書所収の諸論文は、もともと『贛南師範学院学報』に掲載するためにまとめたものであるが、その後、諸般の事情から実現を見なかった。ここに、改めてOUFCブックレット（日中台共同研究「現代中国と東アジアの新環境」）として刊行することにした。諸方面のご諒解をお願いしたい。

（田中仁）